

多高通信

第145号 平成29年8月30日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

災害科学科特別授業

震災の記憶の伝承と

災害への備え

7月18日、災害科学科の生徒1、2年生を対象に特別授業「震災の記憶の伝承と災害への備え」が行われました。北海道南西沖地震を奥尻島で経験したことをきっかけに、災害復興、地域防災に関する研究を志し、現在は東北大学災害科学国際研究所で研究をされている定池祐季准教授を講師にお迎えしました。



講義の様子



前半は、定池先生ご自身の災害研究に進んだきっかけや研究者としてのあゆみについて話され、奥尻島での被災経験が災害伝承・防災教育に携わることになったと「自分が(震災のことを)きちんと伝えていけば、誰かを助けることができるかもしれない。」と思いを述べられました。そして、研究活動で北海道有珠山周辺地域から東北沿岸地域、沖縄地域まで広域に展開されている様子を紹介されました。

れ、防災教育の担い手の変化と防災・減災活動のアプローチとして「目的防災」と「結果防災」という2点についての考えを解説されました。最後に、「暮らしの中に『防災』を」と、「生活防災」の大切さを訴えられました。

■熊坂あゆみ(1年7組 高砂中出身)
大切なのは、経験をしていない人々に語り継いでいくことだと思いました。将来、震災を経験したことがない人たちが少なくなってしまったとき、誰が震災を語り継いでいくかは今の私たちにかかっていると思います。このまま風化させてしまったら、今まで震災から復興へ取り組んできた人々の努力がなかったことになってしまいます。また、これからの災害に対応できなくなるということになります。災害の多い日本にとって「伝承」ということはとても大切なことであるとわかりました。

■鈴木勇太郎(2年7組 矢本第二中出身)
“忘れられていく不安(風化)”というものに対して、災害科学科に学ぶ私たちが情報を発信し、災害について伝えていかなければならないと思いました。私たちがもつと学び、震災経験者がいなくなったときのことについて考えていこうと思いました。

第7回高校生バイオサミット

三鶴岡 科学部

7月27日から3日間、山形県鶴岡市において行われた「第7回高校生バイオサミット」に三鶴岡科学部代表2名が参加しました。



「多賀城高校の松枯れの原因を探る」です。この大会は全国から高校生が集まって発表する大会で、事前に一次選考(論文選考)を勝ち残った学校だけが参加できるものです。宮城県から二次選考に出場した学校は本校だけでした。

科学部部長 山本涼平(2年5組 高崎中出身)

他県の高校生との交流や、大学で行われている研究に関する講演などを通して様々なことを学ぶことができました。その中でも特に印象に残ったことは、他校のポスターに関して、長年のデータの蓄積を基にした研究や、日常気になることを徹底して追求した研究など、どれも見る者を惹き付ける完成度の高いポスター発表でした。この様に他県の発表からとても良い刺激を受けることができました。

今回の経験を踏まえて、私たちの研究をより完成度の

高いものにしていきたいと思えます。そして、来年の第8回バイオサミットに出場して、良い結果を残せるよう努力したいと思えます。

全国総文祭・ポランティア部門

ポスターセッションの様子



8月1日からの3日間、第41回全国高等学校総合文化祭ボランティア部門が多賀城歴史博物館で行われました。

1日目は参加校による活動報告、ポスターセッションが行われ、本校は多くの高校生から防災への取り組み

について質問を受けました。2日目はコース別にワークショップや被災地見学を行いました。多賀城高校は防災減災コースを担当し、ワークショップのファシリテーターと被災地見学の案内を行いました。七ヶ浜国際村、菖蒲田浜などを見学し、イオン多賀城店の駐車場から津波被害の大きさを実感した様子でした。参加者は改めて津波被害の大きさを実感した様子でした。最終日の活動報告会では、各コースの担当校から新しい発見、感想などが発表され、参加者からは「被災した地域の生徒が発信することが大切」「地元に戻ったら防災・備災を呼びかける活動を行いたい」といった感想が出されました。

全国の高校生と触れ合うなかで、生徒たちは新たなアイデアに触れ、これからの活動にさらなる意欲を燃やした様子でした。来年度は長野県での開催になります。その参加に向けこれからの活動に力を入れていきたいと思えます。



兵庫県高校生「東北訪問」

学校交流活動会

8月3日、「2017年 兵庫県高校生『東北訪問』」学校交流活動会が行われ、舞子高校を中心に兵庫

県から来た高校生80名と、本校生徒会や防災委員会の有志が参加しました。

はじめに多賀城市内の「まち歩き」を行い、本校が設置している「津波波高標高プレート」を辿りながら津波浸水域を歩き、津波の爪痕や津波が川を遡上した様子に皆さん驚愕していました。

その後、本校を会場としたワークショップでは、本校生徒会による「3・11の記憶」を紹介。引き続き「様々な災害を想定した避難等について」のテーマで話し合いを行い、自助や共助の大切さ、安否確認等情報収集の必要性などを確認しました。



砂押川の津波遡上の様子を説明



多賀城市3.11モニュメントの前で

岩手大学理工学部

アカデミックインターシップ

8月7日からの1泊2日の日程で、岩手大学理工学部アカデミックインターシップが行われました。この行事は、大学での学びや研究活動を試行的に体験することで大学への視野を広げ、教育内容の理解を深めるとともに学習意欲や進路意識を高めることを目的として、本校と岩手大学理工学部が一昨年度より実施してきたものです。今年度は、本校の生徒13名に加え、仙台向山高等学校、岩手県立一福岡高等学校、岩手県立福岡高等学校の生徒合わせて計60名の生徒が参加して行われました。生徒は「化学」「生命」「数理・物

開講式。尾崎拓准教授によるミニ講義



理「マテリアル」「電気電子通信」「知能・メディア情報」「機械科学」「社会基盤・環境」の8つのコースに分かれ、それぞれ90分6コマのプログラムに取り組みました。

1日目の夜には、多賀城高校生生徒のための特別プログラムが宿泊先の岩手県青少年会館研修室にて行われました。

岩手大学理工学部教授・高木浩一先生、准教授・三浦健司先生の御指導のもと、「研究とは何か」を理解した上で、実験を実施し、その結果をまとめながら考察し説明するという実習を体験しました。本校の卒業生である学生2名も実習のサポートをしてくれました。

2日間で、90分のプログラム6コマと特別プログラムを経験した生徒は、一人一人が大学の学びを実感し、これからの進路選択に役立てる強い決意をもちました。



海洋教育inひろの

inひろの

8月9日、東京大学海洋学ライアンス海洋教育促進研究センター等が主催する「第2回海洋教育inひろの」に、普通科2年の柴田秀人君、災害科学科2年の石川智也君・松嶋佑典君の3名が招待され参加しました。



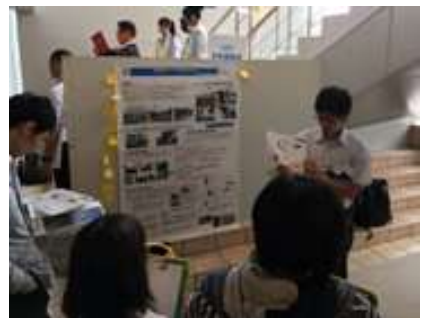
プログラムの様子



開講式後の記念撮影

ました。

「海に学び 海と生きる」をテーマに開催されたこの催しは、岩手県洋野町、気仙沼市の小中高校生、山形県に加茂水産高校の生徒らが、それぞれの学校で取り組む「海との関わり」の研究をポスターセッションで発表しました。本校の石川君と松嶋君は「松嶋湾浦戸野々島における地質構造」について、柴田君は「多賀城の3・11を伝えるために」というテーマの研究を発表しました。



柴田君のポスター発表。小中学生がたくさんコメントを付せん紙に寄せてくれました。

また、後半のワークショップは、彼ら高校生がファシリテーターとなり、小中学生に対して、今日の学びを通しての感想や海についての想いをテーマに話し、グループをリードしていました。

軽音楽部・家庭部

SEVEN BEACH FES. 2017

8月13日、七ヶ浜の菖蒲田浜海水浴場で行われたSEVEN BEACH FESTIVAL 2017に、本校の軽音楽部、家庭部が参加しました。



昨年はプレオープンとして10日間の期間限定で行われた菖蒲田浜の海開きですが、今年は震災後初の正式なオープンを迎えました。40日間の海開き期間中に様々なイベントが行われ、今回のフェスは海開きのメインイベントとして行われました。

軽音楽部は砂浜に設置された特設ステージで野外ライブを行うという、高校生ではなかなかできない経験をすることができました。家庭部はフードブース「花野夏(はなやか)」を開店し、七ヶ浜のカフェ「Cafe La Luna」と共同開発したオリジナルメニューを販売しました。



家庭部の皆さん。「SHOBUTA」のオブジェの前で記念撮影。

8月に入って雨模様が続いており、前日も小雨の予報が出ていましたが、当日だけは奇跡的に晴れ間が見え、素晴らしいイベントとなりました。

軽音楽部副部長 小菅七海

(2年3組 しらかし台中出身)

多賀城高校軽音楽部は、昨年に引き続きのビーチフェスの参加となりました。当日のステージ発表はもちろんのこと、砂浜の清掃活動や発表ステージの制作など、普段の部活動ではできない体験をさせていただきました。当日は2年生が中心となり演奏を行いました。昨年よりも規模が大きくなったフェスでステージに立つことができとても充実したものになりました。

このイベントがそのままずっと続いていき、宮城を代表するようなフェスになれば良いと思います。

科学部

学都「仙台・宮城」

サイエンスデイ 2017

宮城県知事賞受賞

前号紹介した、7月16日のサイエンスデイの展示発表と、7月21日のサイエンスデイ AWARD2017におけるプレゼンテーションを合わせた審査結果で、科学部が「サイエンスデイ・オブ・ザ・イヤー2017 宮城県知事賞」を受賞しました。

「宮城県知事賞」の審査基準は次のとおりです。

- ・ 科学技術に関する理解増進の目的・目標が顕著に達成されているもの。
- ・ 科学技術を社会・一般に伝える内容と方法が画期的であること。
- ・ 他の分野や組織での応用・展開が十分期待できるものであること。
- ・ 次世代の科学技術の向上に資することが極めて期待できるものであること。
- ・ 宮城県の地域特性が最も活かされている。

贈賞式が8月18日に東北大学片平キャンパス「知の館」において行われ、船山遙斗君と鶏徳俊樹君の2名が代表して出席しました。



速報!

吹奏楽部東北大会

8月26日、全日本吹奏楽コンクール東北大会が行われました。本校吹奏楽部は銀賞を受賞し、惜しくも全国大会出場は逃してしまいましたが大健闘でした。

9月2日に行われる多高祭は、吹奏楽部をはじめ、合唱部・軽音楽部など文化部の引退ステージとなります。ぜひ皆様お越しください!

☆第28回 多高祭

一般公開 9月2日 9時〜14時

九州北部豪雨募金について

7月14・18日 下馬駅
7月19・20日 多賀城駅
でご協力いただきました募金は133,066円でした。皆様方からのご厚意は、福岡県朝倉市内の、被害が大きかった学校にお届けします。ご協力ありがとうございました!

